

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
杉の木の木霊伝えし青嵐		山々の裏側の藤花盛り	限定を噛みーむる列よもぎ餅		青嵐石段ゆけば竹林寺		何食はぬ顔で棒立つ菊心坊主		この声が恋の声とは牛蛙

清記用紙(番号)

あおしぐれ

とつとつ

(写)

10	
9	青風葉のなる木陰に夕人聲
8	あかぎ
7	又夜の四かふはては青風
6	舟野舟の舞真向舞るが青風
5	まっしうま
4	青上風聞の揺るがぬアニタしス
3	万緑に飛びまはす青見悟自其靴
2	風神を道はずれとして青に風
1	青時雨風の足音訥々として

清記用紙(番号3)

(長崎)
(写)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金柑の縦に裂けたる曰永かた		妻の本なぞる夕暮れ豆こはん	揚羽蝶 佇む小さき水溜り	夏立つや猫の目線の先を追ふ	苺花へ傾ぐピアスの真白かた	女し	接骨木の花や病の父想ふ	にわとこ	御陵の煙を慕ひて鳥鳴けり

1	風薫るカテドラルへの石畳
2	緑の夜疲弊を乗せて路線バス
3	妻でなく母でもなくて花衣
4	田水張るキラキラと苗を待つ
5	釣鐘や僧のひこつき青嵐
6	靴踊るふの字ほの字のこともの日
7	青嵐早くも靴の擦り減りぬ
8	
9	
10	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			春驟雨滲むアーチや明石橋	建前とうわさ話の春茶会	新緑の海に深くごとと通天橋	ありったけ口を開きて燕の子	陽炎 <small>カゲイロウ</small> や砂のお城の崩れかけ	春驟雨滲むアーチや明石橋	実桜の滲むや海の藍に似て

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
無人の観覧車		雨 <small>も</small> 謁 <small>や</small> 晴れて		くたばって	菜 <small>ま</small> 利 <small>り</small> 花 <small>か</small> や		青嵐	きつかけは	航跡
青嵐の金属音		若葉の山		と自分も	遠くの郷		に吹きたる	新たな	にうつろふ
		となる		四迷 <small>よ</small> の心	の朝		辰 <small>あした</small> かな	まねきの	夏や空に曳 <small>ひ</small> く
					に入る			ツナサウダ	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
御 神山のふもとを流る青嵐	ゴ しんざん	これでもか太平洋へはたた神		焼 酎と寮歌となれば肩を組み	藤 揺れて耳成山と畝傍山		一 万年の甲羅干したり青嵐	素 人の野球解説山笑ふ	無 人駅ペンキ塗りかえ夏に入る

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
				「ごめん」といふ町まで歩こう青月嵐	風竹蕙子庁にひとつの舞 <small>マヒマヒ</small> かな		早乙女の降り立ち揺らぐ水鏡	花いほら山石 <small>カハ</small> 間の流れ刻一刻	四月 <small>シツグチ</small> 尽 <small>ツク</small> 母転倒 <small>マタマヒ</small> の知らせあり

10	青山嵐記憶の孔 <small>あな</small> が 空 <small>そら</small> にいろ
9	
8	青山嵐 ショートカットのリセエニヌ
7	山嵐 竹林ざゆり 青山嵐
6	
5	大神 <small>おほみかみ</small> の銀竜 <small>ぎんりゆう</small> 草の巫女 <small>まじな</small> たちよ
4	犬友 <small>いぬとも</small> の集う公園 夏 <small>なつ</small> 立ちぬ
3	
2	漕 <small>こ</small> ぎ急 <small>いそ</small> ぐ少年の背 <small>せ</small> に 青山嵐
1	昔 <small>むかし</small> 十 <small>と</small> を喰 <small>く</small> む山羊 <small>やぎ</small> の一瞥 <small>ひととぎ</small> 青山嵐

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水面の流るる雲に早苗揺る	子規句碑に青梅落ちたる偕楽園	おらめ	母の日やみづうみ深くしいんとして	青嵐長き祈りの老夫婦	水遣りの飛沫に斑白丁花	いぶき まからほくちうけ	朝焼けに隠されてゐる雲の峰	家蜘蛛や畳寝転び書に沈む	蓮の花母はわたしの胎内に

1 夏が来る
夏が来る
夏が来る
夏が来る

2 夏帽子そばに土産の土産日記

3 あたらまし

4 可憐こころ夜の存ぞのままに花はな散り

5 葉は擦すれ合あい静しず寂ま妖あやしき青嵐

6 青嵐空の轍わだちを解ときにけり

7 のどかなり摘とみたてミントへ朝あのキス

8 ~~青嵐空の轍を解きにけり~~

9 だんじりの曳ひ手想おもふや若葉風

10 青嵐を乗せて列車はカーブする

10	
9	
8	
7	涼風やボトルシッフの帆ふくらむ
6	颯爽と赤きミニスカ夏立ちぬ
5	青嵐 <small>せいらん</small> や蕨 <small>いらいわ</small> の波を鯉魚 <small>こいぎょ</small> 夢々む
4	青嵐弟 <small>あは</small> 庇 <small>かば</small> ふガキ大将
3	土佐弁の溢 <small>あふ</small> るる詩集 青嵐
2	窯元は駅より三里夏つばめ
1	風神の膝で小踊り青嵐

10	行者ゆく山道 <small>スラ 目し</small> 躑草 <small>まふし</small>
9	煌めいて帆の見え隠し 山一豆の芯
8	葱坊主登校の列交 じりたし
7	稚心のまんま歩いて みる鯉のぼり
6	こんな日は誰と歩 ソニラ夏隣研
5	ちよろけたる一年生の 清明
4	パンケキ添へる木苺 ソリスと
3	芍薬のほどける頃を 待ちみたり
2	宮の松神の気配か 青嵐
1	麦の風乗リ継ぎ 待ちの汽車工鏡

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
六甲と有馬に下る青園	年男七度の春を通り過ぎ		上田より順に満水早苗ゆれ	風見鶴の唸り続くや青山園	白靴の汚水が見ゆる寺巡り		陶窯の火の色たけり夏に入る	若沖の著き刷毛目や亀鳴けり	湛水 <small>たんすい</small> に掠 <small>かす</small> む燕の一筆書

かぶと

(桃紅

) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	流木に亀の親子の甲四維干し	町中の主婦の飼うヤギ草若葉	ごっごげぎよ滞 <small>とど</small> っている時鳥 <small>はととぎす</small>		船立 <small>ふねだち</small> や潮 <small>うしほ</small> のけぞる青山嵐	高窓 <small>たかまど</small> に切り抜く楡 <small>やなぎ</small> の若葉色		青山嵐 <small>せいらん</small> や途切れとぎれの <small>とぎ</small> の聲	木目込みの兜飾 <small>かぶと</small> られ和む句座

10	
9	
8	春雷や鉛の空の墮ちて夜
7	軟正然と選手行進 夏はじまる
6	
5	寒村の空に孤高のこいのぼり
4	天平の菟千竹助 清和なり
3	
2	翔ぶつばめ横目で睨む仁王像
1	湯の町の穴工に百本鯉のぼり